



市民サービスを支える業務基盤にVMware Viewを全庁導入 複数の分散拠点に800台の仮想デスクトップ環境を構築し、 管理工数の大幅な削減に加え、BCP対応も実現

課題

- ・ 73拠点に分散する膨大な数のPC管理工数の削減
- ・ いかなる場合でも市役所業務を行える可用性の高いインフラの実現
- ・ 既存システム・業務アプリケーションの運用や操作性の継承

ソリューション

運用負荷軽減とBCP対応を主目的として業務基盤にVMware Viewを導入し、第一弾として800台の仮想デスクトップ環境を構築

導入効果

- ・ 半年以上の運用で故障発生はゼロ。サポート対応が省力化され、管理工数を大幅に削減
- ・ 端末や場所に依存しないシステム利用が可能になり、事業の継続性を実現
- ・ クライアントの追加、割り当てリソースの変更など柔軟な運用が可能に
- ・ VMware Viewとシンクライアントの相乗効果により、端末側の消費電力を半減することに成功

導入環境

- ・ VMware View

業務のIT活用を積極的に推進していることで知られる松戸市。同市では、市役所の業務基盤としてVMware Viewによる仮想デスクトップ環境の全庁導入を決断。その第一弾として、全職員の約4分の1にあたる800台を展開しています。導入の結果、故障対応が皆無になったことに加え、拠点に散在したクライアント環境を一元管理可能になったことで、運用管理に関わる工数を大幅に削減。さらに、端末に依存せずシステムを利用できるため、事業継続性も高まっています。これにより、同市はさらなる市民サービスの向上や市役所業務の効率化を推進していく考えです。

3,000台ものPC管理が大きな負担 市役所の事業継続性も重要課題に

古くは水戸街道の宿場町として栄え、現在は首都圏有数の生活都市として発展を続ける松戸市。ITの活用を積極的に推進する同市では、2005年12月に「松戸市情報システム最適化基本計画」を策定。ホストコンピュータからオープン系システムに移行し、コンビニエンスストアでの市税の収納や住民票などの交付サービスを実現しています。またおよそ3,000名の全職員に一人一台のPC環境を実現し、市役所業務におけるIT活用を積極的に推進しています。

その一方、PCの運用には大きな課題も抱えていました。千葉県内で千葉市、船橋市に次いで居住人口3位の48万人を擁する同市は数多くの支所や出先機関を展開しており、その数は本庁舎を含め78拠点にのぼります。全庁のPC管理を担う総務企画本部IT推進課には、現場からPCの故障や不具合に対する問い合わせが頻繁に寄せられます。「そのたびに担当者が支所や出先機関まで足を運び、サポート対応にあたることもあります。多くの拠点に分散する膨大な数のPCをサポートするのは大変な手間。増大する管理工数を何とかしたいと考えていました」と総務企画本部IT推進課主査の渡辺 正浩氏は語ります。

また、事業の継続性という点でも不安がありました。先の東日本大震災に伴う計画停電により、停電時間中は庁内システムを停止せざるを得ない状況を体験。「このことから場所や端末に依存しない、業務基盤を構築しておく必要性を痛感しました」と総務企画本部IT推進課主査の小北 真弓氏は述べます。

従来と変わらない操作感や製品の実績 親身なサポート対応をトータルに評価

こうした課題を解決するため、同市では職員向けPCの一部リプレースを機に、仮想デスクトップ環境の構築を決断。各社からの提案により採用された中核ソリューションの1つが「VMware View」です。

導入にあたって重視したのが「ユーザーの業務に影響を与えないこと」でした。「業務のパフォーマンスを考えると、既存のシステムや業務アプリケーションを継承し、従来と同じ運用・操作性を維持する必要がありました」と渡辺氏は説明します。

市役所業務で利用頻度の高いシステムとしてはOffice系のアプリケーション、Adobe Reader/Adobe Acrobat、ファイルサーバ、グループウェア、財務管理システム、地理情報システムなどが挙げられます。また同市では市民向けに市議会ライブ中継の動画配信サービスを提供していますが、議事内容や経過把握のためには職員も視聴が欠かせません。そのため、仮想デスクトップ環境でもスムーズに動画を配信・視聴できることも重要な要件でした。

そこで同市は本稼働前に、システム構築を担うベンダーとともに既存のシステムと業務アプリ



松戸市役所
総務企画本部IT推進課
主査
渡辺 正浩 氏

「端末故障が大幅に減り、業務基盤を効率的に運用管理できる環境が整ったことで、運用管理が大幅に省力化されています。ユーザーは端末や場所に依存せずにシステムを利用できるので、ユーザーの業務生産性向上や、事業継続性の担保が実現できています」

松戸市役所
渡辺 正浩 氏



松戸市役所
総務企画本部 IT 推進課
主幹
小北 真弓 氏



松戸市役所
総務企画本部 IT 推進課
主任主事
戸張 徳一 氏



松戸市役所
総務企画本部 IT 推進課
主事
永井 勇輔 氏

カスタマープロフィール

JR、私鉄など6路線を利用できる交通至便な地の利から、首都圏の生活都市として発展を続ける。地域経済の活性化や活気のあるまちづくりに向けて、子育て・教育・文化施策に注力した都市ブランドづくりを推進。またすべての市民にとって住みやすいまちにしたいため「人と人との結びつきを大切にする安全・安心のまちづくり」にも積極的に取り組んでいる。

ケーションの検証を実施。それらがVMware View 上で問題なく稼働することを確認しました。「その際、VUEはVMware Viewの新機能の問い合わせなどに丁寧に対応してくれました。重大な関心事であった検証作業に関して、多大なサポートをしてもらったことに非常に感謝しています」と渡辺氏は語ります。

またソリューションとしての信頼も重要なポイントになりました。以前同市では、情報系サーバの仮想統合を実施。その基盤として、VMware vSphereを採用しています。「その実績から、VMware製品の仮想化基盤としての性能と信頼性を高く評価していました」と総務企画本部 IT 推進課主任主事の戸張 徳一氏は述べます。

800台の仮想デスクトップ環境を全庁導入 複数にまたがる分散拠点の管理を効率化

同市はブレードサーバ7基、ストレージ8台からなるインフラとVMware Viewを導入し、800台分の仮想デスクトップ環境を構築(図)。全73拠点のうち、先行して本庁舎と分庁舎、支所や出先機関を含む38拠点において既存PCをシンクライアントへリプレースし、2012年4月より運用を開始しました。導入後も現在まで大きなトラブルは一切なく、安定稼働を続けています。

導入メリットとして、まず挙げられるのがPC管理の工数軽減です。「以前はPCのトラブルに関する問い合わせが頻繁に発生し、その中には修理に出すPCもありました。しかし、VMware Viewによる仮想デスクトップ環境は半年以上の運用でも故障の発生件数はゼロ。設定変更などもサーバ側で一括して行えるので、サポート対応に各拠点を奔走することもあ

りません」と渡辺氏は強調します。

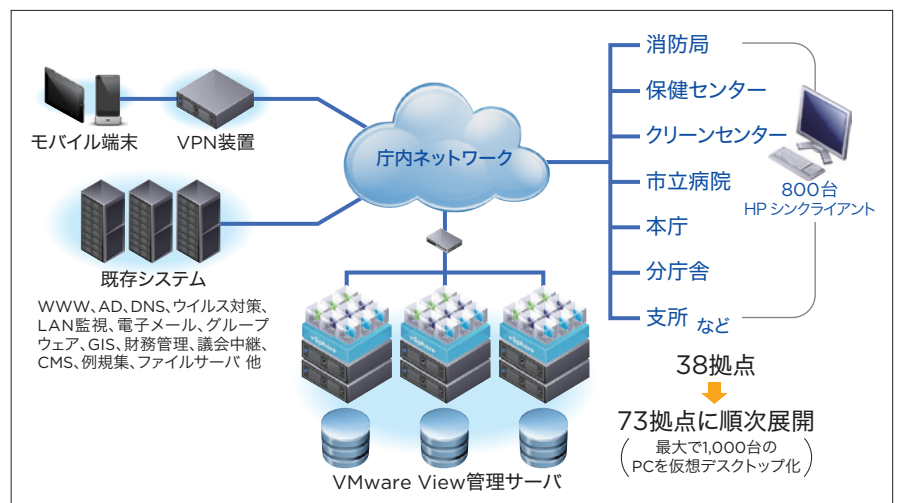
トラブルなく使い続けることができるので、現場の業務が滞る心配もなく、事業継続性も高まっています。「端末や場所に依存せずにシステムを利用できるので、災害時でも市民のための市役所業務が継続できる環境が整備できました」と渡辺氏。

ユーザーである職員にも大きなメリットをもたらしています。「従来までのPC操作感で業務を行いつつも、デスクトップ環境のパフォーマンスは向上しています。また、PC調達の時間を考えると、従来は数日かかっていましたが、今や半日もかからず対応できます。ユーザーの業務生産性向上にもつながっています」と総務企画本部 IT 推進課主事の永井 勇輔氏は話します。

また仮想デスクトップ環境の実現により、端末は消費電力の少ないシンクライアントに移行しています。「これにより、端末側の消費電力はほぼ半減され、その分の電力コストの削減につながっています」と渡辺氏は話します。

今後は順次シンクライアントの台数と展開拠点数を拡大していき、平成26年度までに最大で1,000台のPCを仮想デスクトップ化する計画です。「仮想デスクトップのメリットを活かせば、場所を問わず業務を実施できるようになるので、業務効率も飛躍的に高まります。職員のワークスタイル変革も含めて今後検討していきたいですね」と小北氏は期待を寄せます。

松戸市ではVMware Viewによる仮想デスクトップ環境を基盤インフラとして活用することで、さらなる市民サービスの向上や市役所業務の効率化を目指す構えです。



図：松戸市における仮想デスクトップ環境のイメージ

